

「令和 3 年度富山市中学校 3 年生学力調査」  
結果の概要

令和 4 年 1 月 2 6 日 (水)

富山市教育委員会



# 「令和3年度富山市中学校3年生学力調査」結果の概要について

## I 本調査の目的

- ・各中学校が、3学年生徒の2学期終了時の学力定着状況について、実証データに基づいて把握し、今後の学習指導の改善・充実に生かす。
- ・生徒一人一人が、自分の努力すべき課題に向かって意欲的に学習に取り組むよう進路指導資料として活用する。

## II 実施状況

- 1 実施期日 令和3年12月2日(木)、3日(金)
- 2 調査教科 国語、社会、数学、理科、英語
- 3 実施学校数・生徒数

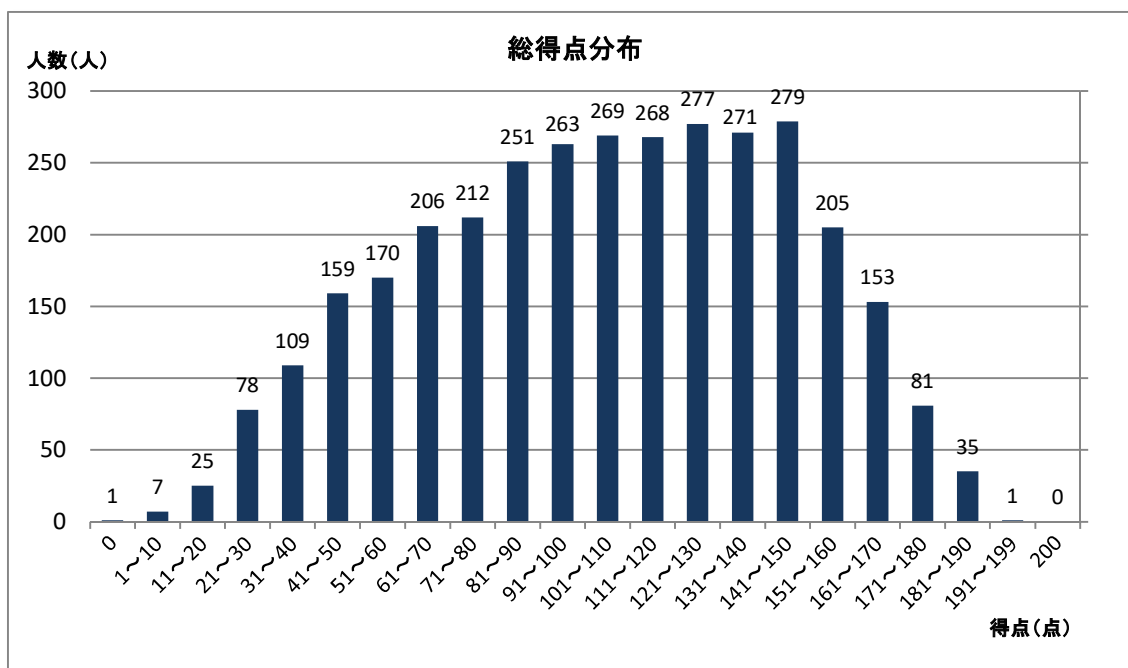
実施学校数	生徒数	
27校1分校 附属中を含む	在籍数	3,571人
	受検者数	3,320人 (5教科全てを受検した生徒数)

## III 結果の概況

- 1 教科別全生徒平均点

国語	社会	数学	理科	英語	総得点
21.9点	20.7点	19.1点	22.0点	20.9点	105.0点

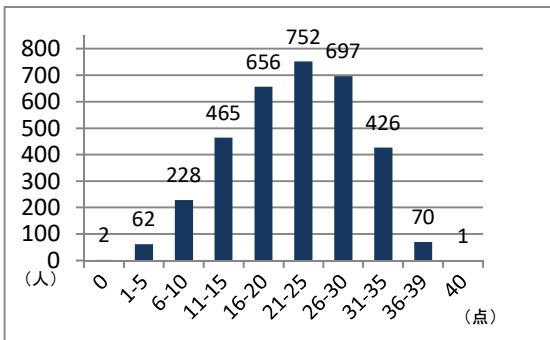
- 2 総得点分布グラフ



### 3 教科別得点分布グラフ

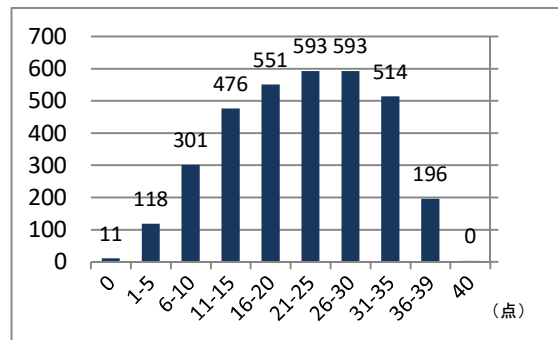
#### 国語

平均点 21.9点 受検者数 3,359人



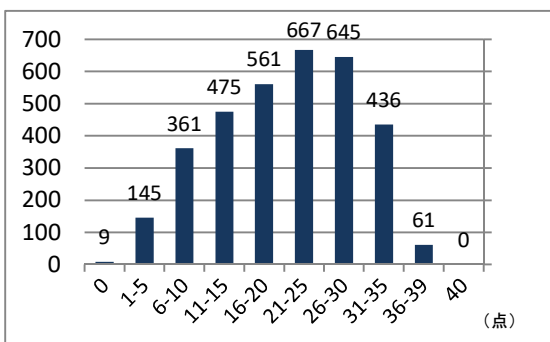
#### 理科

平均点 22.0点 受検者数 3,356人



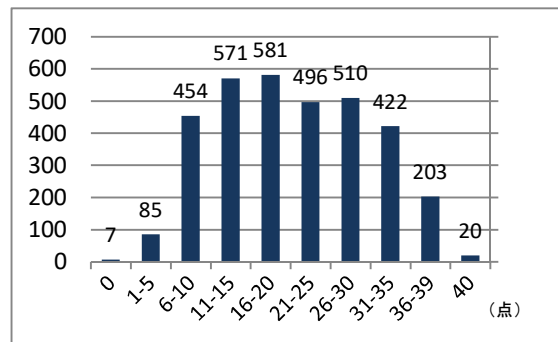
#### 社会

平均点 20.7点 受検者数 3,360人



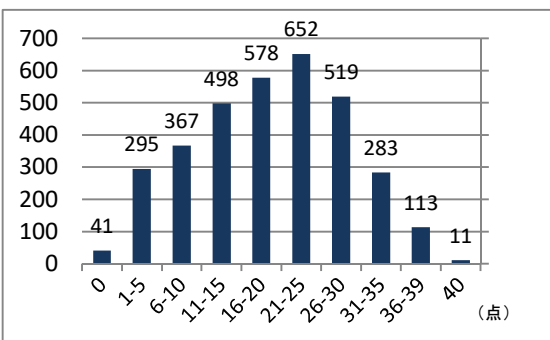
#### 英語

平均点 20.9点 受検者数 3,349人



#### 数学

平均点 19.1点 受検者数 3,357人



## IV 結果の概要

### 1 抽出調査について

27中学校の各学級8人(男子4名、女子4名)をそれぞれ出席番号の早い順に1番から4番まで抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、必ず各学級から8人の抽出を行うものとした。

### 2 抽出生徒数

学校数	学級数	抽出生徒数
27校	100学級	800人

(附属中含む)

## V 各教科の概要

### 1 教科の考察

#### (1) 教科全体から見た結果

「得点分布表」「観点別解答率表」等から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

#### (2) 正答率の高い問題について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

#### (3) 読解力と正答率の関連について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率と読解力との関連について、実際の問題の一部を提示しながら考察を行う。

### 2 今後の授業に向けて

1の(3)で考察した読解力の視点も含め、今後の指導の工夫について表記する。

## VI 読解力の視点からの考察

### 1 読解力

中央教育審議会答申において、PISA2015の結果から、子どもにとって言葉を取り巻く環境が変化する中で読解力に関して改善すべき課題が明らかになったと示されている。なお、「PISA型読解力」とは、一般的な文字や文章といった「連続型テキスト」の理解だけでなく、グラフや図表、地図など様々な資料（「非連続型テキスト」）を理解し、利用し、熟考する力であるとされている。

### 2 読解力の視点からみえる課題

数学科において、表をもとに文章を読んで連立方程式を立てる設問（通し番号12）の正答率が36.9%、理科において、グラフを読み取り文章中の空欄を補充する設問（通し番号7）の正答率が44.3%であった。今年度の全国学力学習状況調査の中3数学においても、設問内の主張についてグラフの特徴を基にその理由を説明する問題の正答率が低かった。表やグラフの資料を分析することに課題がある。

国語科の作文で、2つのグラフを関連付けて意見を書く設問において「内容が条件に合っており、全体の内容にまとまりがある」（通し番号32）の正答率は38.6%であった。また、社会科においても、2つのグラフを参考にして意見文の空欄を補充する設問（通し番号32）で、正答率が39.9%であった。複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすることや、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることに課題がある。

### 3 読解力の向上に向けた今後の指導

多くの情報があふれる今の社会において、自ら情報を求め、収集、整理・分析する力は必要不可欠である。そして課題解決のために、その情報をいかに活用し考えを深められるか、読解力の育成が求められている。

#### ○ 資料を分析する

数学科や社会科、理科において、表やグラフ等の資料を教材として提示する際、生徒は「何が表れているのだろうか」「この資料の意図は何なのか」と視点をもって資料を読み、そこから分かることをノート等にメモする。そして、資料から読み取れる特徴や変化について共有する際には、ペアやグループで自分の見解を述べたり仲間の考えを聞いたりするなど、生徒同士の対話を通して資料の理解を深めたい。

#### ○ 資料から導き出した考えを説明する

複数の資料の共通点や相違点、関連性を探る中で、「これらにはどういう関係があるのだろうか」「これは○かもしれない」など、疑問をもったり仮説を立てたりして資料と向き合い、分析結果や自分の考えについて、理由を明らかにしながら説明できるようにしたい。そのために、各教科や総合的な学習の時間等、インターネットから多くの資料を引用してくる活動において、その資料は自分の課題解決のためにいかに重要なのかを伝える文章を書き添えるなど、複数の資料を用いた説明を書くような場面を設けたい。

## VII 中1学力調査との比較からの成果と課題

中1学力調査の結果と比べ、例年同様、全体的に正答率は低い。総得点の平均正答率は中1で67.9%、中3で52.5%であった。その中で、社会科の「思考・判断・表現」の観点において、無答率が9.9%から4.1%に上がっており、書くことへの意識は高まっているが、正答率の向上にはつながっておらず、今後も課題として残っている。

一方、国語科の作文の設問で無答率が中1も中3も10%で変化が見られず、文章を書くことへの苦手意識をもつ生徒への指導が課題である。中学校だけでなく、小学校段階から授業の最後の振り返りを書く際に、内容や方法を確実に指導し、小中連携して習慣化を図る。視点を明示するなど、書くことに関して抵抗がなくなるようにしたい。

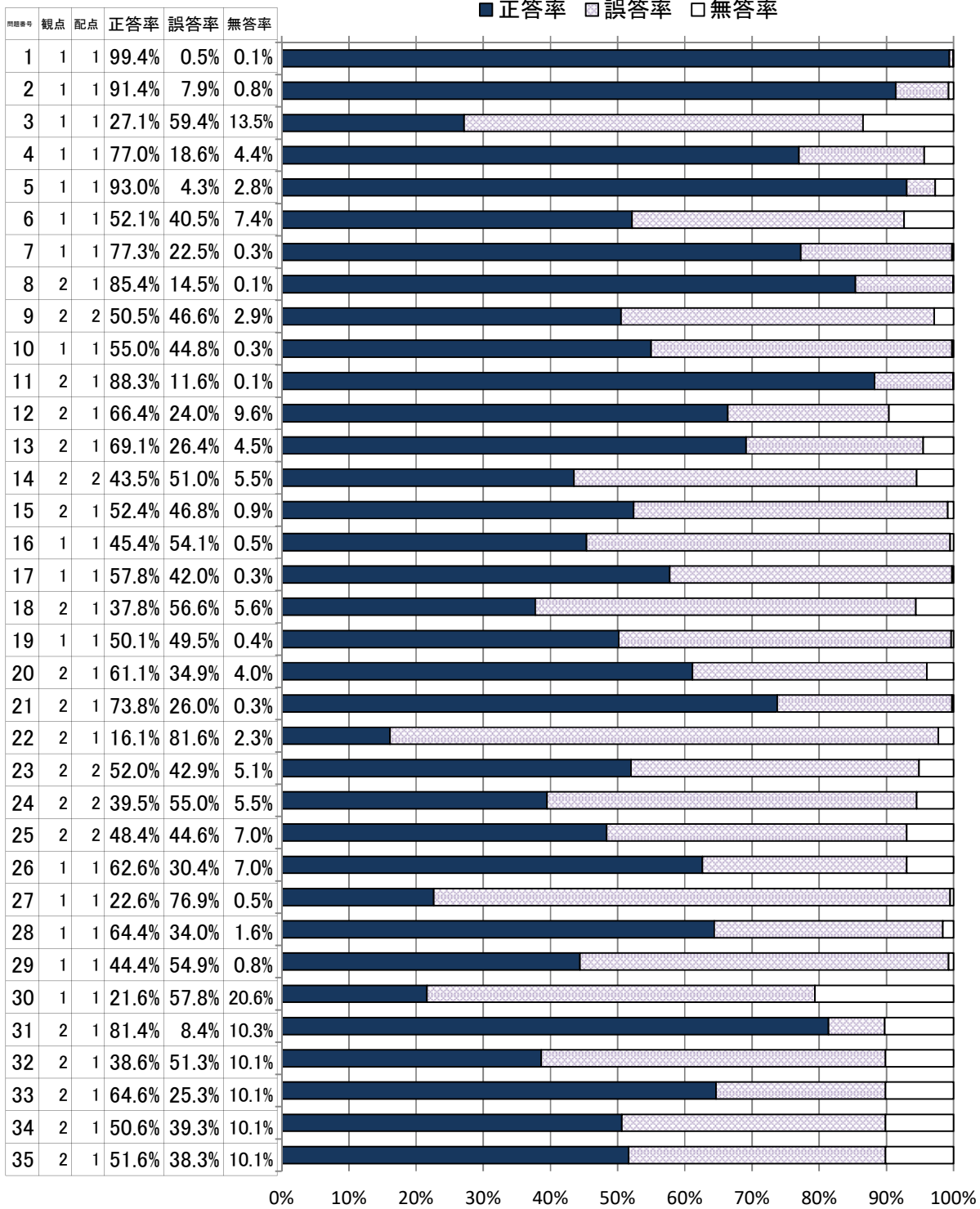
Ⅷ 抽出生徒から分析する各教科の概要

**国語**

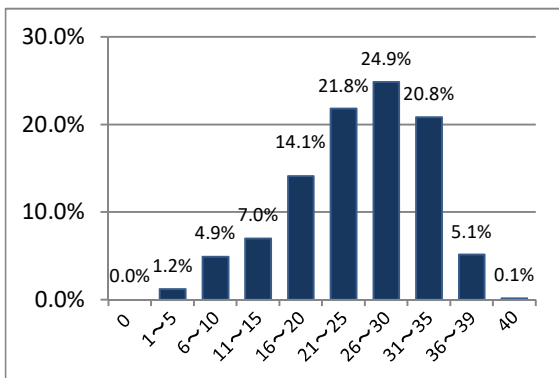
抽出生徒数 800人

抽出平均 22.5点

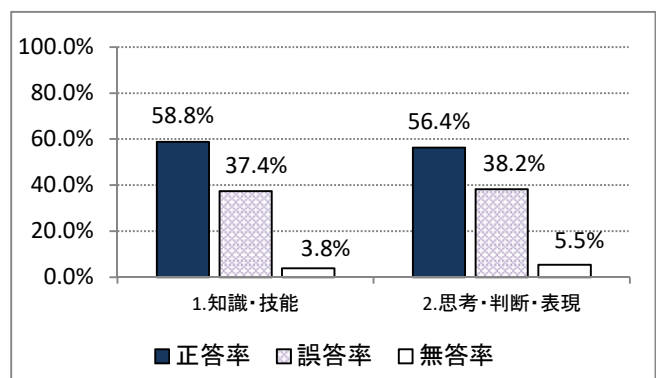
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 国語科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 22.5 点であり、昨年度 (24.7 点) から 2.2 点低くなっている。観点別の正答率は「知識・技能 (58.8%)」「思考・判断・表現 (56.4%)」で、観点による大きな差はない。内容別に正答率を見てみると、漢字の読み書き (73.3%)、説明的な文章の読解 (65.3%)、文学的な文章の読解 (48.2%)、古文の読解 (43.1%)、作文 (57.3%) となっており、特に古文を読み解く力に課題が見られる。

### (2) 正答率の高い設問について

「知識・技能」を問う設問では、「口調」「伴う」等、漢字の読み方を答える設問の正答率が高く、基本的な漢字の知識が定着しているといえる。ただ、熟字訓「為替」の読み方を答える設問は、正答率が 27.1%と低い。日ごろの学習活動や日常生活の中で言葉に関心を持ち、語彙を増やす工夫が必要である (通し番号 1、2、3)。

「思考・判断・表現」を問う設問では、説明的な文章において、適切な接続詞を選択する設問の正答率が 88.3%と高い (通し番号 11)。また、作文では、指定字数内で二段落構成にまとめて書くことができている生徒の割合が 81.4%であったが、一方で、作文の無答率が 10%を超えており、書くことに対する苦手意識をもつ生徒が一定数以上いることがうかがえる (通し番号 31~35)。

### (3) 読解力と正答率の関連について

説明的な文章の読解では、本文の空欄に当てはまる文の一部を選択する設問の正答率が 85.2%と高い (通し番号 8)。この設問は、空欄の前後に多義語の例が挙げられているのを読み取り、選択肢の中から適切な文言を選ぶものである。正答以外は類義語の例であり、8割以上の解答者が正確に前後の文脈を読み取り、多義語と類義語を選別して回答できていた。

文学的な文章の読解では、特定の語句を使用し、本文の内容を指定字数でまとめて記述する設問の正答率が 43.5%と低い (通し番号 14)。本文の記述をつなぎ合わせただけでは正答にはならず、言葉を補って説明する必要がある設問である。事象の関係性を正確に把握し、筋道立てて説明することに課題が見られる。

(通し番号 8)

A の部分に当てはまるものとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「やばい」がまずかったりすごかったり      イ 「開く」と「開ける」を使い分けたり  
ウ 「今日」も「本日」も同じ日を表したり      エ 有名な人のことを「著名人」と書いたり

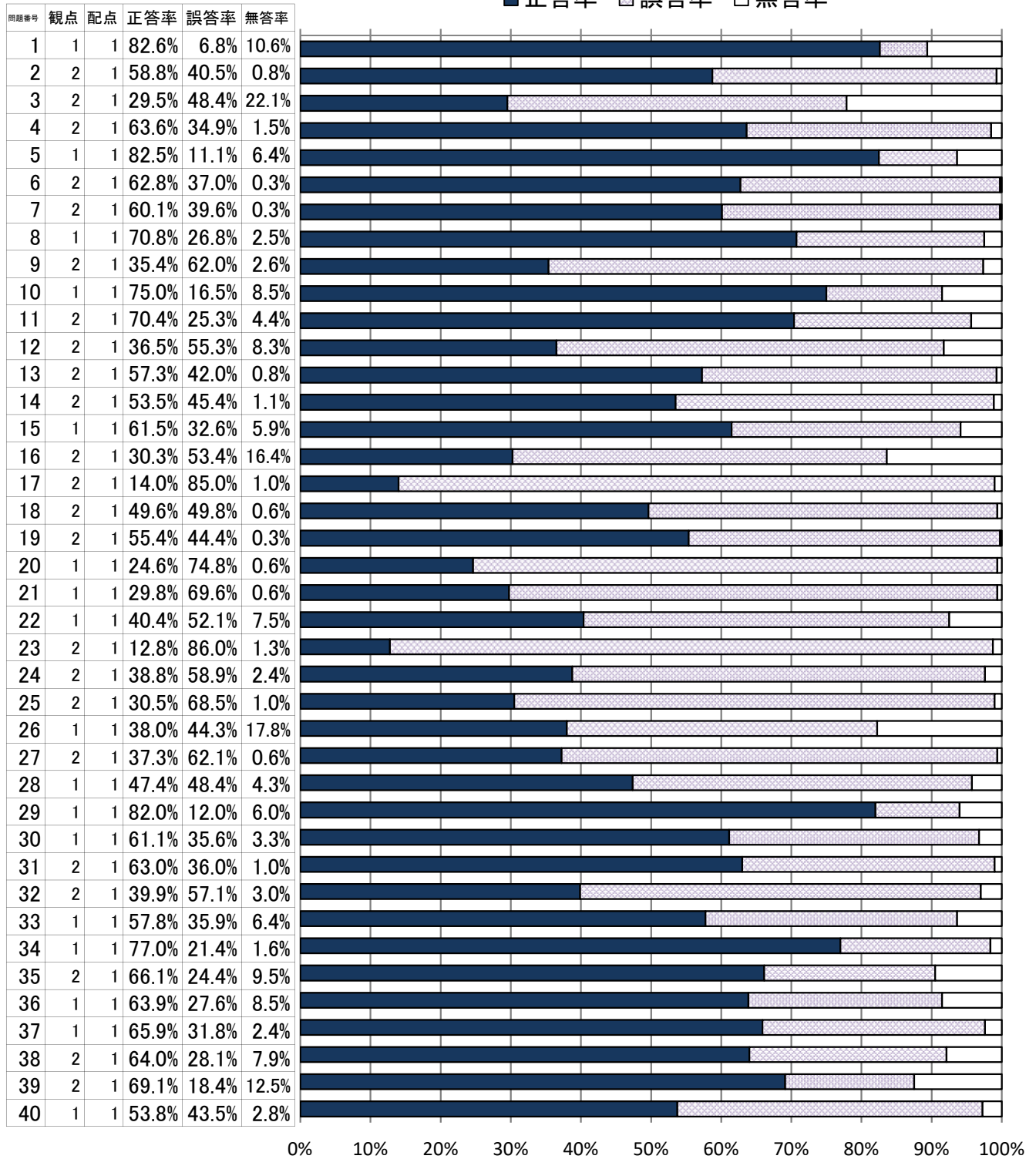
(通し番号 14)

⑤ とても手を出せる代物ではない とありますが、それはなぜですか。「菜食主義」「魚や肉類」という言葉を用いて、35 字以上 45 字以内で書きなさい。

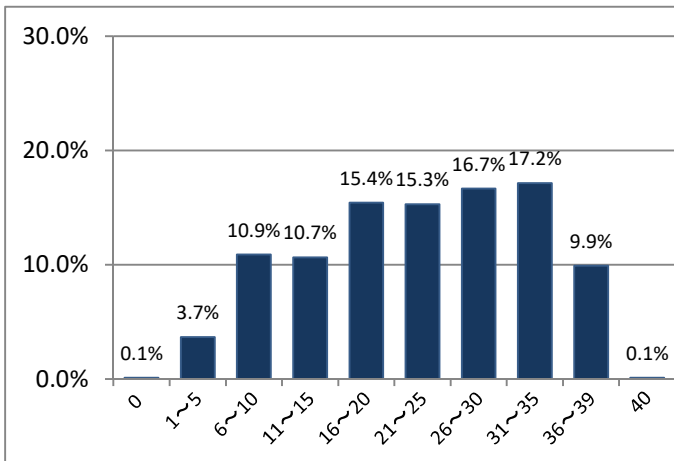
## 2 今後の授業に向けて

- (1) 古文を読み解く力を付けるためには、教科書に掲載されている文章の読解に加え、関連した別の文章にふれる機会をつくることも効果的である。同じ出典の随筆や物語から複数の文章を用意し、生徒が自身の興味や関心に応じて選択し、読み味わうなど、主体的に学習に取り組めるように工夫する。また、古文の大意をとらえる際には、限られた情報から全体像をとらえつつ、「昔の日本人も今の自分たちと同じだ」と、古文の世界を身近に感じ、その面白さを味わうようにしたい。
- (2) 語彙に関する知識を豊かにすることにも力を注ぎたい。ことわざや慣用句、故事成語等の反復学習を行うのも効果的である。また、主体的に読書に親しむ態度を養うよう継続的に指導したい。
- (3) 読解力を養い、同時に書く力を付けるための手立てとして、説明的な文章の読解においては、2 つ以上の事象の関係性を説明させる活動が効果的である。また文学的な文章の読解においては、登場人物の心情について、文章の中での変化の前後を比較して違いを説明する活動が考えられる。また、一人 1 台端末を活用し、生徒が互いの意見の違いを知るなどして、さらに考えを深められるよう配慮したい。

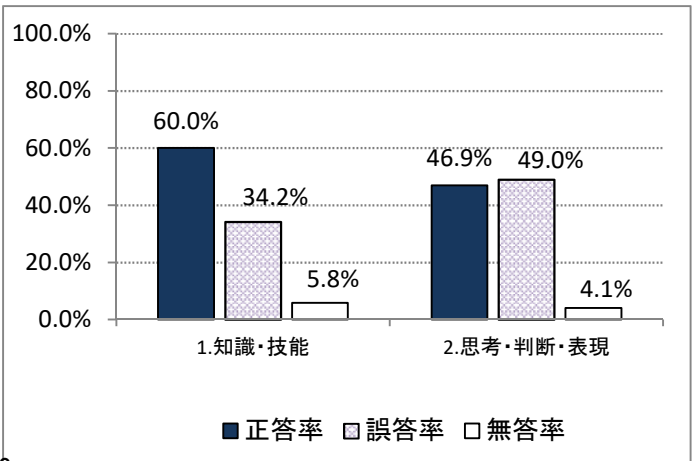
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】





## 1 社会科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は21.1点で、観点別の正答率は、「知識・技能」が60.0%、「思考・判断・表現」が46.9%である。歴史的分野において正答率が40%を下回る問題が9問(14問中)あった。特に、時代ごとの特徴をとらえる問題の正答率が30%前後と低い。また、無答率が10%以上の問題は5問で、昨年度(12問)より減少したが、記述式の問題での無答が目立つ。

### (2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」では、基本的用語・事項を答える問題の正答率が高い(通し番号1、5、29)。

「思考・判断・表現」では、野菜出荷額のグラフから出荷時期に着目して農業における出荷時期をずらす工夫点を答える問題、参議院議員選挙の議員定数と有権者数をまとめた表から一票の重みの格差を答える問題等、資料から必要な情報を読み取って答える問題の正答率が高い(通し番号11、39)。

### (3) 読解力と正答率との関連について

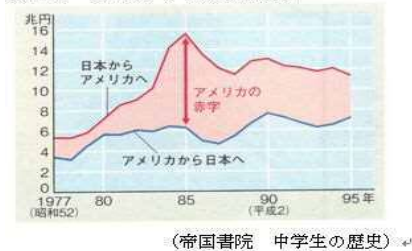
日本とアメリカの貿易額と日本の自動車生産の変化を表した2つのグラフを読み取り、説明文を完成させる問題の正答率が36.5%と低かった。複数の資料を関連付けて貿易の不均衡について考察し、自分の言葉で表現することが難しかったと考えられる(通し番号12)。

(通し番号12)

自動車について、あきこさんは、1980年代に起きた課題と日本の対応について次のようにまとめた。資料5・6を参考にして、次の(①)・(②)に適する語句や文章を入れなさい。

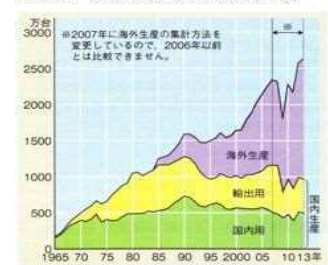
「あきこさんのまとめ」  
1980年代、日本とアメリカ合衆国・ヨーロッパ諸国との間で、(①)が激しくなったため、日本企業は(②)対応をとった。

資料5 日本とアメリカの貿易額



(帝国書院 中学生の歴史)

資料6 日本の自動車生産の変化

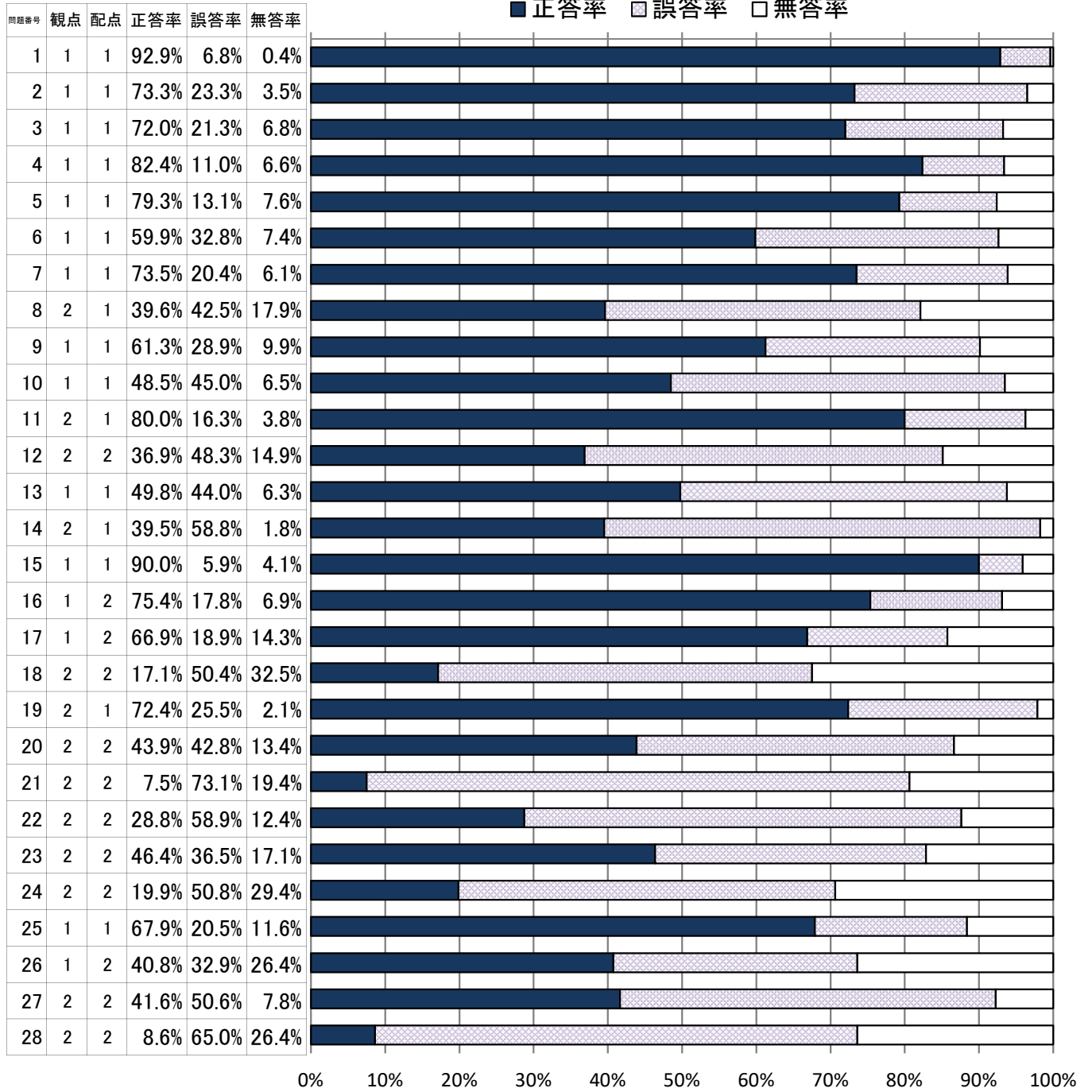


(帝国書院 中学生の地理)

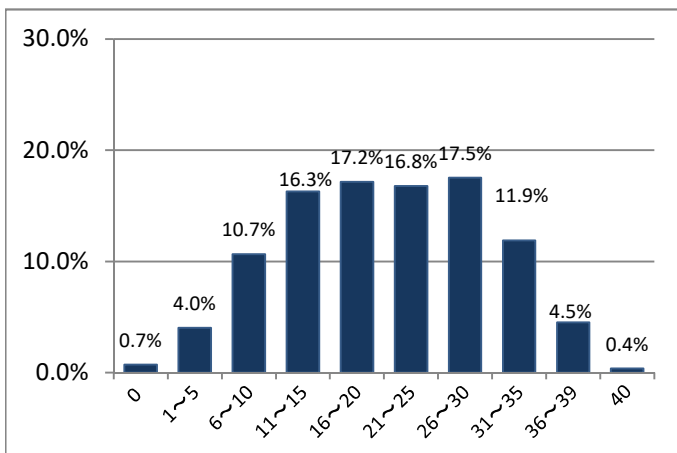
## 2 今後の授業に向けて

- (1) グラフや表等の資料を根拠として説明する力を育成するために、量・変化・割合等を視点として資料を読み取り、キーワードを使って短文で表したり、文の始まりを指定して説明したりする機会を継続的に設けたい。さらに、授業でのまとめや振り返りをノートに記載し、単元の最後にそれらを読み返して、学習内容を確認する場面を計画的に取り入れる。
- (2) 「思考・判断・表現」の観点別正答率が46.9%と低い。思考力・判断力・表現力を育てるためには、「〇〇がなぜそうしたのか」「〇〇はどのような影響を及ぼしたか」など、背景、原因、結果、影響を問うなどの学習課題を設定し、調べた事象を比較・関連・統合して、その意味や関係を適切な言葉を使って伝え合う学習を充実させる。生徒自らが課題を見つけ、解決していく学習を計画的に取り入れたい。
- (3) 生きて働く知識を習得するために、既に習得した知識と新たに学んだことを結び付けて考察する場面を設定し、知識をどのように活用すればよいかを経験させる。地域ごとの農産物の出荷時期調整が店頭での野菜の値段にみとれることなど、実際に知識を活用する喜びや有用性を実感させ、社会生活の中でも活用していこうとする姿勢を育む。

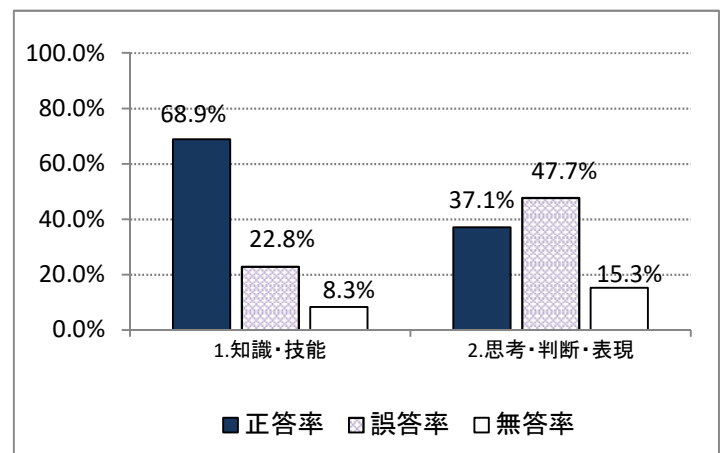
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 数学科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は19.5点である。観点別にみると、「知識・技能」の正答率が68.9%であるのに対して、「思考・判断・表現」の正答率が37.1%と低い。誤答率と無答率を観点別に比較すると、誤答率、無答率ともに「知識・技能」の値のおよそ2倍が「思考・判断・表現」の値となっている。また、無答率が10%以上の問題は12問あり、分野別に比較すると関数分野が5問と一番多かった。

### (2) 正答率の高い設問について

「数と式」領域では、正の数と負の数の四則計算、連立方程式を解く設問、比例式を活用して解く設問の正答率が高い（通し番号1、4、11）。

「関数」領域では、関数 $y = ax^2$ の $y$ 座標を求める設問の正答率が高い（通し番号19）。

### (3) 読解力と正答率の関連について

表から数量の関係を読み取り、連立方程式を立式する設問の正答率が36.9%と低かった（通し番号12）。誤答率が48.3%と高かったのは $g$ で示された数値と $mg$ で示された数値が混在していたため、統一して単位を扱うことに課題があったため戸惑った生徒が多かったためと推察される。

また、箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を読み取り、文章の正誤を判断する設問では、無答率は1.8%と低かったが、正答率も39.5%と低かった（通し番号14）。箱ひげ図の箱のどの部分が四分位数を表しているのかやひげの端が何を表すのか等の基礎的な知識が身につけていなかったため、正しく読み取ることができなかったと考えられる。

(3) 下の図は、あるクラスの男女各15人が20点満点の計算テストをしたときの得点の分布を表した箱ひげ図である。このとき、次の問いに答えなさい。

(2) この図を見たタダシさんが、下のア～エのように読み取れると考えた。ア～エの考えについて、読み取れる内容として、正しいものには○を、正しくないものには×をそれぞれかきなさい。

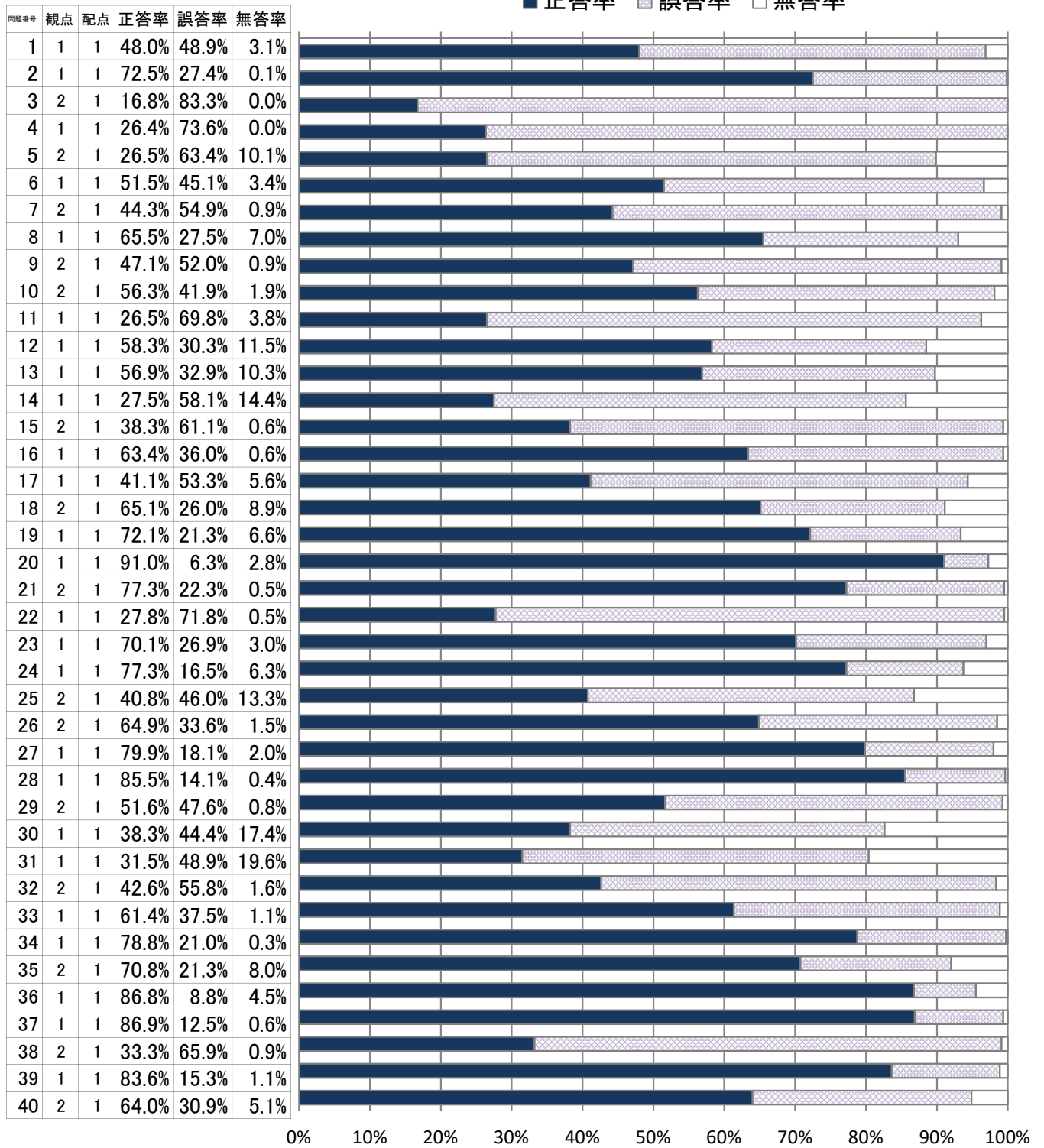
- ア 男子の14点から20点に分布する人数は、11点から14点に分布する人数の2倍である。
- イ 男女どちらも中央値は、11点である。
- ウ 女子には、8点の生徒が必ずいる。
- エ 男女どちらにも、14点以上の生徒が5人以上いる。

## 2 今後の授業に向けて

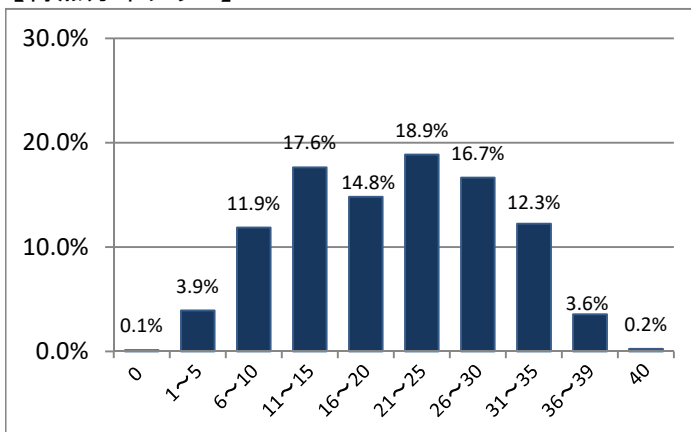
(1) 「関数」領域の学習では、円の面積と円の半径の長さの関係など、具体的な事象を扱うことで可視化できるため関数を理解しやすい。導入場面においては、具体的な事象の中からともなって変化する二つの数量に着目し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数関係を見だし考察し表現する力が養われる。

(2) 図表やグラフから読み取る力を養うためには、生徒の身近なことを題材とすることで興味をもたせ、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断する活動を取り入れるのが有効である。活動を通して、データを処理する場合、必要とされる情報を表現するのに適しているのは何であるかを、生徒が判断し、表現し、その表現を振り返る機会を設けることでよりよい表現方法が身につく。

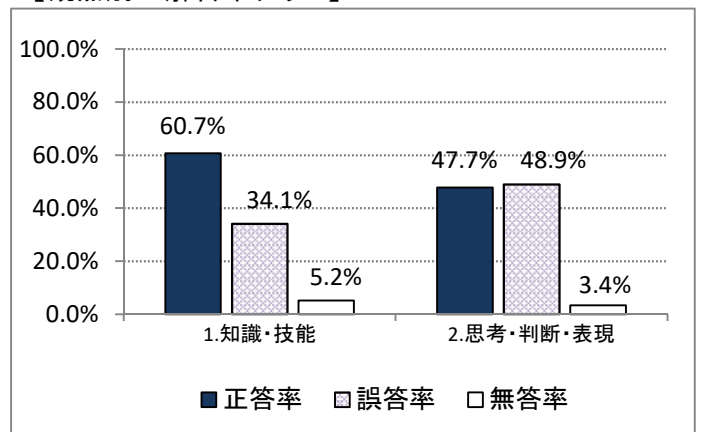
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 理科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 22.5 点であり、昨年度の 20.6 点を上回った。観点別でみると、「知識・技能」の正答率が 60.7%、「思考・判断・表現」は 47.7%であった。無答率が 10%以上の設問は 7 問（設問数全体の 17.5%）であり、昨年度と同じであった。

### (2) 正答率の高い設問について

「消化に関する実験の留意点」の正答率は 90%を超えた（通し番号 20）。

また、「磁界におけるコイルの動き」「染色体の名称」「細胞分裂の過程」「記録タイマーの使用法」に関する設問の正答率は 80%以上であり、実験・観察に関する知識・技能が身に付いている（通し番号 28、36、37、39）。

### (3) 読解力と正答率との関連について

「大地の成り立ちと変化」において、ボーリングから得られる情報を整理し、地層全体の様子を考察する設問の正答率が 38.3%と低い（通し番号 15）。等高線を示した地図と地層の様子を示した図表（柱状図）を活用し、大地の様子を三次元的に捉える力が必要な設問となっている。図 4 が一般的な柱状図ではなく、ボーリング資料の様子を示した図で、示されている数値が地表からの深さであることを読み解く必要があった。表やグラフ、図等の中の単位や凡例、数値をもとにして、何を示した資料なのか考える力に課題がある。

（通し番号 15）

〔4〕 (4)

さらに、この地域の地下の様子を調べるために、図 3 の P～R 地点でボーリング調査を行ったところ、図 4 のような柱状図が得られた。この地域の地層は、どの向きにいくにつれて低くなっているか。最も適当なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。ただし、各層は、連続して堆積し、地層の逆転はないものとする。

図 3

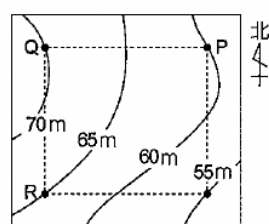
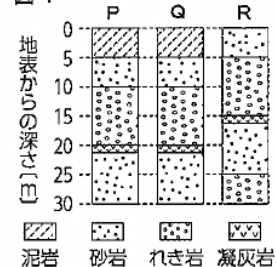


図 4

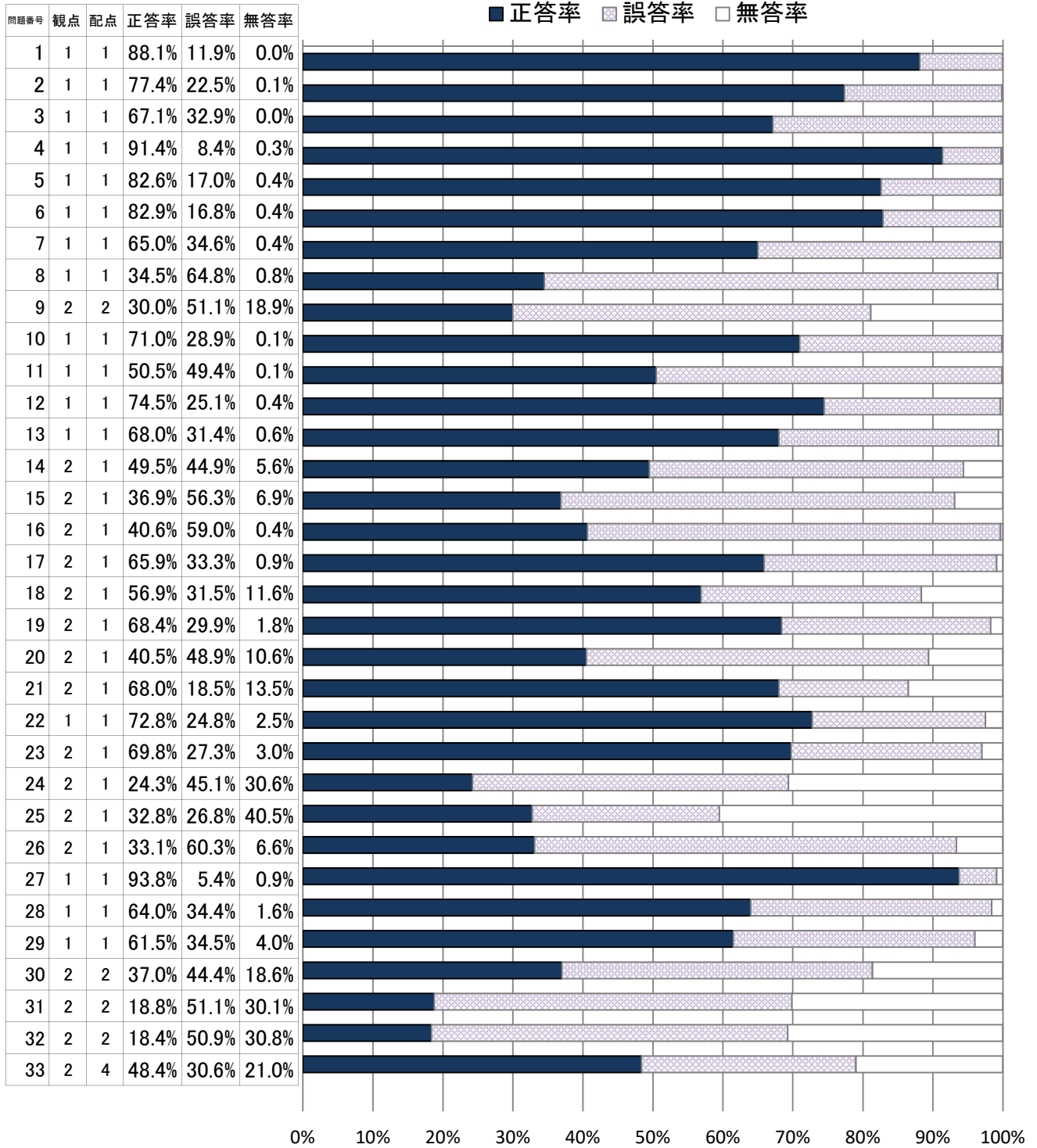


ア 東 イ 西 ウ 南 エ 北

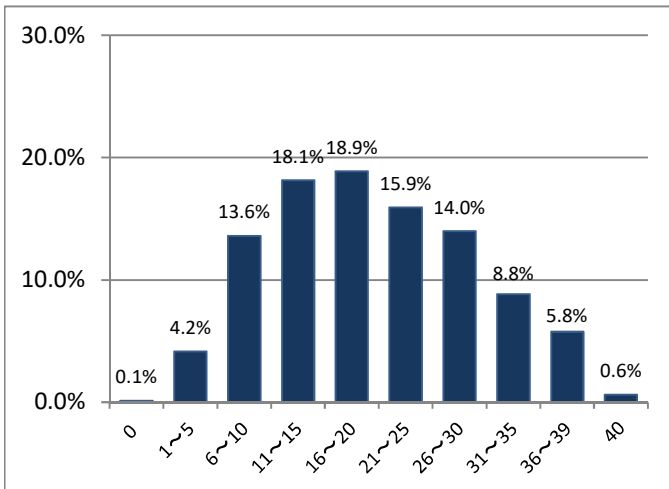
## 2 今後の授業に向けて

- (1) 主体性をもって科学的に探究する態度を養うためには、教師からの一方的な課題提示ではなく、日常生活との関連を図りながら、生徒自身の気づきや疑問を基に、根拠のある仮説を立てた後に検証計画の立案を行うなど、検証までの見通しをもった観察・実験を繰り返し行うことが大切である。
- (2) 「知識・技能」を高める手立てとして、観察・実験を安全に正しく実施する技能に加え、得られた実験結果が妥当であるか、正確性が高められているかという視点を大切にさせるとともに、生徒が誤った実験結果を基に考察することがないように配慮が必要である。また、観察・実験から得られた知識を基に「他の生物や物質でも当てはまるか」など、他との関連性に目を向けることで知識の定着が図られることにも意識して指導にあたる。
- (3) 読解力を育成し「思考力・判断力・表現力等」を高めるには、実験や観察の際に、データを図、表、グラフ等の多様な形式で表して比較したり、規則性を見いだしたりするなどして、資料から考察する過程を大切にする。考察に当たっては、課題を正確に理解した上で、実験結果から得た事実（結果）を根拠にして、実験から分かったこと（結論）を導きださせたい。

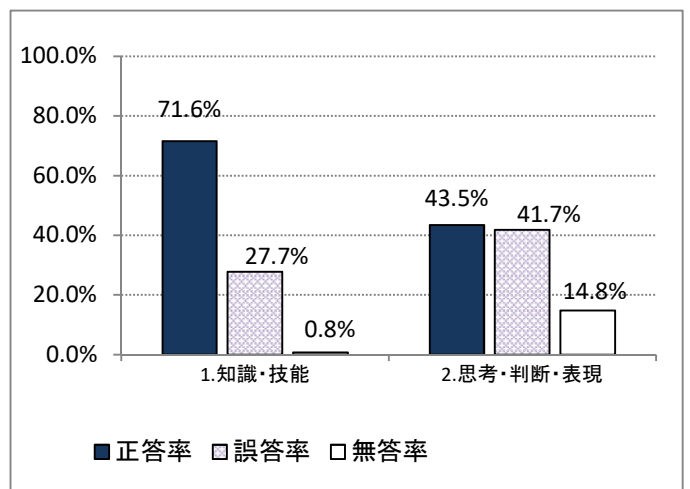
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 英語科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 21.2 点である。観点別でみると、「知識・技能」の正答率が 71.6% に対し、「思考・判断・表現」の正答率が 43.5% である。また、「知識・技能」の無答率は 0.8% に対し、「思考・判断・表現」の無答率は 14.8% である。無答率 10% 以上の問題は 10 問であり、昨年度の 13 問より減少している。

### (2) 正答率の高い設問について

「知識・技能」(全 16 問)に関する設問では、英文や対話文を聞いて、その内容の正誤について答える設問や概要を理解する設問の正答率が高い(通し番号 1、2、4、5、6)。「思考・判断・表現」(全 7 問)に関する設問は、長文を読んで、その内容にふさわしい英文や図を選ぶ問題やスピーチに対するコメントに本文中から適切な語を抜き出す設問の正答率が高い(通し番号 17、19、21、23)。

### (3) 読解力と正答率との関連について

世界の人口増加と食料問題のためにできることを 2 つ選んで日本語で記入する設問では、正答率が 24.3%、32.8% とかなり低く、無答率が 30.6%、40.5% とかなり高い。英語の長文を読み取って内容を把握するためには、語彙力、文構造を理解する力、必要な情報を取り出し概要を素早くとらえる力が必要であり、これらに課題があると考えられる(通し番号 24、25)。

(通し番号 24、25)

- (3) 拓海さんは、世界の人口増加と食料問題のためにできることをいくつか提案しています。そのうちから 2 つ選んで日本語で答えなさい。

【解答に関連する段落】

I have learned that \*overpopulation and food \*shortage are our problems. I think we should do what we can do to fix the problem. For example, we should try to eat everything on our \*plates, find what we can do to help people in trouble, and learn about the world's problems.

## 2 今後の授業に向けて

- (1) 外国語でのコミュニケーションにおいて活用できる「知識・技能」を身につけるために、実際の生活場面でコミュニケーションを行うことを想定し、課題を設定する。目的や場面、状況に応じて適切な表現を選択したり、情報を整理して意見や思いなどを相手に伝えたりする活動を継続的に行い、言語材料の定着を図る。
- (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、様々なテーマで、まとまりのある文章から概要や要点を素早くとらえたり、必要な情報を読み取ったりする活動を充実させる。
- (3) 「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うために、生徒が興味をもって取り組める身近な話題を取り入れ、自分の思いや考えを話したり書いたりして伝え合う自己表現活動の機会を十分に確保する。実際のコミュニケーションの場において、生徒が自信をもって活動に取り組めるような言語活動を展開したい。

